

開成学園排球部OB会
会報第30号

1. 総務関係報告および活動予定

平成22年	4月	第28回開成・麻布定期戦開催（当番校：開成） ☆総合優勝☆ 開成（6連覇達成 通算19勝9敗）
	5月	年度幹事会開催
	6月	OB総会開催
	8月	会報発行
平成23年	4月	第29回開成・麻布定期戦開催（当番校：麻布） ☆総合優勝☆ 開成（7連覇達成 通算20勝9敗）
	5月	年度幹事会開催
	6月	OB総会開催
	9月	会報発行

<平成23年度 第29回開成麻布定期戦報告>（文責：平成18年卒小泉）

3月11日に発生した東日本大震災のため、体育館の状況や被災者の方々の心情を考え一時開催の是非も検討されたのですが、麻布側のご配慮もあり、例年通り4月上旬の日程で、第29回開成麻布定期戦が開催されました。昨年まで2年続けて開成開催だったこともあり、今年度は麻布高校にて開催される運びとなりました。開成は昨年見事6連覇を達成し、今年も更に連覇を重ねるべく、桜が満開に咲き誇る中、今年で29回目となった伝統の定期戦に臨みました。

開会式が終わり、まずは中学戦が行われました。去年は3セット目しかもデュースまでもつれ込む大熱戦となったこの中学戦ですが、今年2年連続の都大会進出を果たし更なる上位進出を目指す開成としては、勝利することはもちろん試合内容をも問われる大事な一戦となりました。さて蓋を開けてみると、試合序盤こそ諸先輩方の目の前で試合ということで大分硬さも見られたのですが、試合が進むにつれ安定したプレーを披露してくれました。サーブやレシーブなど基本的なプレーがかなり身につけてきているところを見ると、宮先生・中学コーチ松本君指導の下目的意識を持って日々しっかりと練習に取り組んでいるのでしょう。終始こちらのペースで試合が進み、結果は2-0のストレート勝ちに終わりました。これから都大会で強豪校を相手に上位に食い込んでいくためにも、この調子で基本的なプレーの精度をさらに上げることを第一に、中学生らしく大きな声を出して元気に頑張ってもらいたいと思います。

中学戦勝利の興奮冷めやらぬ中、続いて超OB戦が行われました。昨年大会において待望の勝利を上げたこの超OB戦、昨年に引き続きさらに連勝を重ねていくべく、諸先輩方は試合前から気合十分といった様子でした。試合は両チームの意地と意地がぶつかり合い、文字通りの熱戦となりました。序盤から往年の姿を彷彿とさせる好スパイク・好レシーブが何本も飛び出し、普段9人制バレーを見慣れていない現役達も食い入るように観戦していたようです。麻布の好サーブなどに苦しめられる場面もありましたが、毎年の恒例となりました事前のチーム練習の成果も発揮され、繋ぎも抜群で、終始リードを保ったまま1セット目を取りました。2セット目以降も老獺なプレーで麻布との差を広げ、最終的にはやや余裕を持って勝利することができました。諸先輩方も内容・結果ともに大満足のご様子で、超OB戦の連勝はこれからも続いていくのかなと思わず期待してしまうような大勝利となりました。

OB戦は、本年度も各学年で声かけをし合うことで、とても大勢のメンバーが集まったの試合となりました。1セット目、こちらは今年大学に入学したばかりの若手OBを主体にチームを編成して戦いました。序盤は体も思うように動かずリードを奪われる展開に少々あせりも出ましたが、中盤からは勢いを取り戻し、危なげなくセットを取ることができました。2セット目以降は、メンバー編成を大きく変えて試合に臨みました。中盤からはチームとしてカットが多少乱れる場面もありましたが、向こうのサーブミスにも助けられ常に主導権を渡さずセットを奪取、今年も最終的には大差をつけて勝利を上げることができました。しかし、日ごろバレーから離れている若手OBも多く、現役のお手本とはならないややお粗末なプレーも散見されましたように思います。これから現役高校生にとって良い練習相手となるためにも、開成クラブで荒川区大会において上位を目指して

いくためにも、機会を見つけて定期的に集まって練習をするなどの対策が必要であると強く感じました。

ここまで開成は中学・超OB・OBと3連勝、久方ぶりの完全優勝の期待も高まる中、最後の高校戦を迎えました。例年5月に控える関東予選上位進出の試金石となるこの麻布戦高校生の部ですが、昨年エース不在という厳しい条件の下惜しくも敗北を喫してしまったことを受け、今年は絶対に勝利を上げるべく高校生も気合十分の様子でした。今年は震災の影響で事前の春合宿が中止になってしまい、チーム練習が不足する中、コンビネーションにもやや不安があったのですが、麻布との実力差もかなりあったこともあり、終始リードを保ち安定した試合運びを見せてくれました。試合全体を通じて、レシーブが安定し、そこからのレフト攻撃を軸にどんどん点差を離していきました。効果的なブロックも時折見られ、結果最終的に2セットとも大差をつけた末、2-0のストレート勝ちを収めることができました。この勝利に弾みをつけ、コンビ攻撃に磨きをかけつつも5月に迫った関東予選において、念願の関東大会出場を目指し是非とも頑張ってもらいたいと思います。この勝利を受けて、開成は中学・超OB・OB・高校の全4部門全勝で定期戦7連覇を果たすことができました。

その後は場所を移して懇親会が行われました。先程まではライバルとして勝利を賭けて熱戦を繰り広げましたが、終了のホイッスルが鳴り響いた後には、数10年来の良き友の姿がそこにはありませんでした。OBはお酒を飲みながら麻布・開成の同期同士現役時代の思い出を振り返りながら懐かしい話に花を咲かせていたようです。そして話に一区切りついたところで両校エールの交換を行い、今年の健闘を称え合いつつも来年の再戦を誓いました。

2. 平成23年度役員人事

役員

顧問	栗原 弘	先生
	奥山 茂樹	先生
	宮 利政	先生
	須藤 俊文	先生
名誉顧問	岩谷 昭史	先生
	伊藤 清一	先生
相談役	吉村 功	(S26 卒)
	進藤 定夫	(S30 卒)
	石束 晃一	(S34 卒)
	安井 高明	(S37 卒)
	山本 純一	(S38 卒)
	佐藤 勇	(S40 卒)
	結城 教仁	(S43 卒)
	田中 俊一	(S43 卒)
	片野 昭秀	(S44 卒)
会長	桑田 起義	(S45 卒)
会長代行	小川 宗男	(S45 卒)
副会長	矢澤 俊彦	(S48 卒)
	市村幹司郎	(S50 卒)
	関 茂和	(S54 卒)

幹事長	小泉 達彦	(H18 卒)
副幹事長	増田 修久	(S59 卒)
	藤井 遼介	(H22 卒)
会計幹事	関 茂和	(S54 卒)
	田沢 優	(H9 卒)
監査幹事	富部 直希	(S43 卒)
総務幹事	大内 隆成	(H14 卒)
	大橋 尚史	(H18 卒)
	金田 涼佑	(H19 卒)
	山田 淳也	(H19 卒)
	溝口 晃	(H21 卒)
	藤井 遼介	(H22 卒)
	松本 裕太	(H22 卒)
HP 管理幹事	溝口 晃	(H21 卒)
OBチーム主将	藤井 遼介	(H22 卒)
高校コーチ	徳田 大輔	(H23 卒)
中学コーチ	松本 裕太	(H22 卒)
	川竹 翔大	(H22 卒)

年度幹事

24年～27年	吉村 功 (26 卒)	49年	高塚 義弘	H6年	鈴木 大輔
29年～30年	進藤 定夫 (30 卒)	50年	松下 和正	H7年	依田 秀則
31年～32年	明渡 久和 (31 卒)	51年	上野 雅資	H8年	鈴木 周
34年	石束 晃一	52年	老川 功明	H9年	宮 利政
35年	平松 久和	53年	野口 恭司	H10年	川原 希彦
36年	三崎 哲郎	54年	関 茂和	H11年	楓 淳一郎
37年	安井 高明	55年	高浪 孝勝	H12年	川原 尊徳
38年	山本 純一	56年	鈴木 章弘	H13年	丸崎 玲
39年	鈴木 康之	58年	藤森 光章	H14年	勝井 政博
40年	佐藤 勇	59年	清水 誠一	H15年	丹野 敬大
41年	西山 祐二	60年	草野 昌行	H16年	森 禎三郎
42年	片野 清昭	61年	津野 泰明	H17年	浅川 洋貴
43年	結城 教仁	62年	奈村太久馬	H18年	梶原 啓
44年	片野 昭秀	63年	和知 敏樹	H19年	金田 涼佑
45年	小川 宗男	H1年	小木曾和宏	H20年	加登 翔太
46年	西村 隆	H2年	和里田 聰	H21年	溝口 晃
47年	松田 信彦	H4年	神波 泰夫	H22年	藤井 遼介
48年	矢澤 俊彦	H5年	古野 徳一	H23年	徳田 大輔

3. 会計報告

平成 22 年度 収支報告書

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額	
(支出の部)		(収入の部)		
春夏合宿援助費	¥60,000	年会費	¥547,000	
現役強化費	¥116,000	受取利息	¥10,460	
コーチ交通費補助費	¥50,000			
通信費	¥70,000			
荒川区大会参加費	¥7,200			
麻布定期戦費	¥25,000			
文房具費	¥14,070			
事務費	¥43,450			
慶弔費	¥0			
幹事会費	¥6,000			
送金手数料	¥3,050			
		永峰氏寄付金より繰入	¥100,000	
	小計	¥394,770	小計	¥657,460
次年度繰越金	¥4,615,494	前年度繰越金	¥4,352,804	
合計	¥5,010,264	合計	¥5,010,264	

平成 23 年度 予算

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額	
(支出の部)		(収入の部)		
春夏合宿援助費	¥120,000	年会費	¥500,000	
現役強化費	¥200,000	受取利息	¥10,000	
コーチ交通費補助費	¥60,000	永峰氏寄付金より繰入	¥100,000	
通信費	¥80,000			
荒川区大会参加費	¥20,000			
麻布定期戦費	¥25,000			
文房具費	¥15,000			
事務費	¥70,000			
慶弔費	¥10,000			
幹事会費	¥5,000			
送金手数料	¥5,000			
	小計	¥610,000	小計	¥610,000
次年度繰越金	¥4,615,494	前年度繰越金	¥4,615,494	
合計	¥5,225,494	合計	¥5,225,494	

平成 22 年度 永峰光雄氏寄付金特別会計収支報告書 平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額
(支出の部)		(収入の部)	
平成 22 年度予算に繰入	¥100,000		
		前年度繰越金	¥800,000
小計	¥100,000	小計	¥800,000
次年度繰越金	¥700,000		
合計	¥800,000	合計	¥800,000

平成 23 年度 永峰光雄氏寄付金特別会計予算 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額
(支出の部)		(収入の部)	
平成 23 年度予算に繰入	¥100,000	前年度繰越金	¥700,000
小計	¥100,000	小計	¥700,000
次年度繰越金	¥600,000		
合計	¥700,000	合計	¥700,000

会計幹事 熊谷 達範(昭和 54 年卒)

関 茂和(昭和 54 年卒)

監査 富部 直希(昭和 43 年卒)

4. 中学戦績 (文責：平成22年卒 松本)

中学コーチの平成20年卒松本です。昨年、去年に引き続き都大会出場を果たすことができました。今後の更なる上位進出を目指し、日々練習に取り組んでいます。

荒川区予選 10月9日

1 試合目 対諏訪台中：0－2で敗北

2 試合目 荒川四中：2－0で勝利

3 試合目 尾久八幡中：2－1で勝利

結果として、荒川区で準優勝となりました。

この大会では、2年生の一人が怪我をしていて出られなかったため、1年生を入れたのですが、まだバレーボールを始めて間もないとは思えない動きを見せてくれました。

ブロック大会

・1日目 10月16日

1 試合目 対足立九中：0－2で敗北

2 試合目 対渕江中：0－2で敗北

3 試合目 対千寿桜堤中：2－0で勝利

・2日目 10月17日

1 試合目 対銀座中：2－0で勝利

2 試合目 対足立十二中：2－0で勝利

この大会の結果を受け、見事都大会出場を果たしました。

序盤で離されても、諦めずに相手に追いつき、結果として勝利するという成長を見ることができました。

新人戦都大会 11月14日

1 試合目 対芝中：2－1で勝利

2 試合目 対清新一中：1－2で敗北

今回の試合の結果、都ベスト32という結果になりました。

この時期になっても、未だにサーブミスやチャンスボールのカットミスが多く、リードしていた点差を取り返されたり、離されているときには、さらに点差を広げられたりといった場面が非常に目立ちました。こういった、「もったいないミスというものを如何にして減らしていくか」ということが今後の課題となると強く感じる事となりました。

六校リーグ 2月13日

1 試合目 対暁星中：1－2で敗北

第1セットは、怪我をしていた2年生のエースの代わりに1年生が出ましたが、他のメンバーも不調で4－25で完敗。

第2セットからは、2年生のエースを出し、ベストメンバーで臨みました。結果サーブがよく決まり、終始リードを保ったまま25－18で勝利。

第3セットも、その勢いのまま行きたかったのですが、前のセットとは打って変わってサーブミスの連続でリズムを乱し、13－25で負けてしまいました。

麻布定期戦 4月10日

対麻布中：2－0で勝利

ご覧になっていた先輩方も多くいらっしやっただと思いますが、終始相手に流れを渡すことなく、自分たちのバレーが出来ていたように思います。

荒川区予選 6月25日

1 試合目 対尾久八幡中：1-2で敗北

2 試合目 対荒川四中：2-0で勝利

1回戦で尾久八幡中と対戦。第1セットは25-15で取り、2セット目も13-8でリードし、そのままいくと思いましたが、中盤連続ポイントを与え、逆転され終盤追いついたものの26-24で敗れました。3セット目は、前のセットの負けを引きずり、前半リードを許し、中盤に追いつきましたが、ミスが連続し、26-28で敗れてしまいました。

主将の足のケガもありミスが目立ち、全く力を出せないまま終わってしまいました。

3位決定戦では、荒川四中に25-15、25-14で勝ち、荒川区3位という成績でした。

ブロック大会

・初日 7月2日

1 試合目 対足立十一中：0-2で敗北

2 試合目 対淵江中：0-2で敗北

3 試合目 対足立十二中：2-0で勝利

・2日目 7月3日

1 試合目 対足立六中：2-0で勝利

初日。選手達は授業があったので、午前中は授業に出て、午後から大会に参加し、3試合連続で戦いました。前の二試合は格上相手ということもあり、良いプレーもいくつか見られたものの、自分たちのバレーがさせてもらえず、ストレート負けを喫しました。3試合目は絶対に勝ちたい試合だったのですが、3試合連続の3試合目ということで、さすがに疲れが見え、1セット先取したあとの2セット目、あわや負けるかという瞬間もありましたが、なんとか粘り、勝つことができました。

2日目は、9-11位決定戦（第5ブロックは11チームが都大会出場）がありました。出場は昨日の各グループで3位になった4チームが出場。1回戦で足立6中と当り、25-19、25-21で勝利し、3大会連続の都大会出場を果たしました。昨日の疲れが残っているせいか、動きにシャープさがなく、相手に点を献上する形の展開で、厳しい戦いとなりましたが、なんとか逃げ切りました。

都大会 7月22日

1 試合目 対小松川三中：2-0で勝利

2 試合目 対足立九中：0-2で敗北

1回戦は春の都大会ベスト16、夏の大会の6ブロック3位の実力校小松川三中。

試合前の練習では、明らかに小松川のスパイクの方が上で、2枚エースのうち一人がサウスポー。

「他のアタッカーはそれほど怖くはないという分析をし、とにかくエースをブロックで徹底的にマークする」という宮先生のゲームプランでした。序盤から接戦でした。3-3から徐々に引き離し、10-6。相手は開成をなめていたのか、監督はタイムを一度もとりませんでした。そこから1点ずつの点の取りあいが続き、18-14から桃井くんのサーブのときに21点まで取り、25-18でそのまま逃げ切りました。相手に2点以上の連続ポイントを与えなかったすばらしいセットでした。2セット目は3-2から酒井くんのサーブで崩し、相手のエースがブロックを怖がりネットにかけるなどのミスが続き、8連続ポイント。11-2と大きくリード、相手のエースをブロックで完全に押さえ込み、18-8。楽勝かと思われましたが、そこから少し気持ちが緩み、連続ポイントを許して、追いかけられましたが、25-21で逃げ切りました。

2回戦は春の都大会ベスト4、夏の5ブロック2位の足立九中でした。さすがにオープンだけでなくセンターからもライトからも打ってくるすばらしいチームでした。1セット目は一時9-6でリードし、またミラクルを起こしてくれるかという期待を持たせてくれましたが、そこからスピードのあるサーブに崩され、11-17と逆転されました。そこから追いかけたのですが、15-25

でとられました。2セット目は序盤5-10とリードされ、このまま行ってしまうのかと思われましたが、追い上げ14-14と追いつきました。しかしそこから少しミスも出、17-25で敗戦。

ぜひ皆さんにも見ていただきたかったすばらしい試合でした。実力的にはこのコートの2位（ベスト16）と言っていいでしょう。

これで3年生は中学を卒業し、高校の練習に参加することとなります。

ただし、8月24日・25日にある私学大会には、引退試合ということで、3年生を中心のチームで参加し、優勝を狙います。

OBのみなさまのご支援を感謝いたします。

5. 高校戦績 (文責：平成22年卒 藤井)

高校コーチの平成22年卒藤井です。今年も高校生は春の関東大会出場に向け、日々一生懸命練習に励んでいます。以下短いですが、今年1年間の高校生の戦績を報告したいと思います。

秋季大会 10月31日

・1日目

1 試合目 対岩倉高校：2-0 (25-5 25-15) で勝利

2 試合目 対青山高校：0-2 (20-25 22-25) で敗北

初戦であたった岩倉高校でしたが、2セットの間に10本近いサービスエースを取るなど、終始有利なペースで試合を続けることが出来ました。またスパイクポイントを取られることも少なく、安心して落ち着いた試合運びが出来たように思います。2試合目の相手青山高校は実力的にも拮抗した相手でしたが、1セット目で開成が5本のスパイクミスに加えサーブミスを連発してしまい、落ち着いてプレーした青山に1セット目を取られてしまいました。その後2セット目に入ってからミスの数で青山を上回ってしまい、終始リードを許したまま敗北してしまいました。レフトが攻撃の要である開成にとって、両エースの勝負どころでのスパイクミスの影響がどれほど大きいのかを実感させられる試合結果となってしまいました。

私学大会 2月13日

1 試合目 対獨協高校：2-0 で勝利

2 試合目 対大東文化一高校：2-0 で勝利

3 試合目 対日体荏原高校：2-0 で勝利

4 試合目 対駿台学園高校：0-2 で敗北

開成での大会となった私学大会でしたが、先ず獨協、大東文化一との3校リーグ、その後日体荏原、駿台学園と順にあたりました。獨協・大東文化一には実力的に優位に立っており、現役も緊張を感じることなく、サーブミス、スパイクミスともに少なく切り抜けることが出来たように思います。別の3校リーグから勝ち上がってきた日体荏原とも比較的手堅い試合展開を見せ、目標であった駿台学園との試合の切符を手にします。その後東京を代表する強豪である駿台との試合を迎えたのですが、実力差は大きく、現役には「縮こまったプレーするのではなく、思い切って駿台にぶつかってこい」と宮先生からの指示もあり、現役は玉砕覚悟で試合にのぞみました。結果はストレート負けでしたが、強豪校のブロック、安定したレシーブにコンビアタックなどに触れ、得るものは大きい敗北であったように思います。

新人戦 2月20日

1 試合目 対国分寺高校：2-0 (25-18 25-15) で勝利

2 試合目 対東海大高輪台：2-1 (22-25 25-13 25-13) で勝利

3 試合目 対錦城高校：0-2 (12-25 16-25) で敗北

1 試合目の国分寺高校戦では第1・2セット両方で序盤に大きなリードを得ることが出来、後半多少追い上げられたものの終始リードを保ったまま勝つことが出来ました。東海大高輪台は実力的には開成よりも格下の相手だったのですが、第1セットで序盤から両チームミスを連発し、高輪台は後半立てなおしたものの開成は悪循環から抜け出せず、ミスで14失点という痛い出だしとなってしまいます。しかし第2・第3セットはミスの数が減り、高輪台も同程度のミス頻度だったため実力の差でしっかりと奪い返すことが出来ました。3試合目の錦城高校は手堅い守りをもったチームで、第1セットは開成のスパイクが思うように決まらず、相手のミスで点を稼ぐ展開となり、相手にブロックポイント5点を許し第1セットを落としてしまいます。第2セットでは中盤まで粘ったのですが、勢いで押され6連続ポイントを許すなどしてリードを広げられ逃げ切られてしまいました。長いラリーを相手のブロックポイントで取られてしまうことが多く、スパイカーの冷静な判断力の向上が課題となりそうです。

麻布定期戦 4月10日

: 2-0で勝利

毎年恒例の麻布戦でしたが、今年はいよいよ悲願の中学、高校、OB、超OB全勝を成し遂げることが出来ました。高校戦に関しては、麻布との実力差も大きく、多少のミスはあったものの慌てることなくしっかりと第1、第2セットを取ることが出来ました。現役にとっては自信をつけ、最後の関東大会予選に向けてモチベーションを上げる良い機会となったのでは無いかと思います。

関東大会予選

・初日 5月1日

日大櫻丘、日野台、開成、立川国際、城東の5校リーグ

コート決勝 対城東: 2-1で勝利

5校でのリーグとなった初日でしたが、5校中開成、城東が実力で抜きんでおり、予想通りコート決勝で開成、城東が2日目の切符をかけて戦うことになりました。城東は強力なスパイカーがいない分、コートの隅を狙った長く柔らかいスパイクやフェイントを多用する粘り強いチームで、強いスパイカー相手に慣れている開成は苦戦を強いられました。第1セットでは城東が緊張からかミスを連発し、スムーズにセットを取ることが出来ました。第2セットは息を吹き返した城東が本来の持ち味を発揮、ギリギリのボールを取ることが出来ず開成は第2セットを落とします。追い詰められた第3セットですが、落ち着いた現役は相手の戦法に完全に慣れると、こちらの強力なエース2枚で城東を圧倒し、城東を倒して2日目の切符を手に入れることが出来ました。

・2日目 5月8日

1試合目 対成城: 2-0(25-15 26-24)で勝利

2試合目 対明明: 0-2(21-25 23-25)で敗北

成城は支部選抜のセンターを擁する攻撃力の高いチームで、実力的にも開成とほとんど互角のチームでした。第1セットでは序盤からこちらのエースの調子が良く、また成城のエースが序盤のミスから立ち直ることが出来ずにごたついている間に点差を広げ、予想外の大差で第1セットを取ることが出来ました。しかしながら第2セットでは成城も本来のプレーを取り戻し、支部選のセンターや2枚のレフトを中心に粘り強く戦ってきました。試合は終始一進一退の展開でしたが、要所で開成のセンターがブロックを決め、また多少未完成だったBクイックで成城をかく乱し、デュースの末に開成が勝利することができました。2枚のレフトエースが成城と互角に戦う中、伏兵だったセンターが勝利の決め手となってくれたように思います。

明明はスパイカー個人の強さでは成城に劣るものの、高いレシーブ力と様々なコンビで攻撃してくる守備に長けたチームでした。センターが強いという点で成城と似通ったチームでしたが、そのセンターを囷に小回りの効くスパイカーがライト側に走りこんで素早いスパイクを打って来たため、こちらのエースのブロックが追い付かず、ブロックが機能しきれない内に第1セットを落としてしまいます。逆転を誓って臨んだ第2セットでしたが、セット開始のサーブを裏エースがミスしてしまったのを機に両エースが焦ってしまい、序盤にスパイクミスを数本重ね、序盤にリードを許してしまいます。その後リズムを取り戻し、猛追を見せたものの、守備で勝る明明にあと一步のところまで逃げ切られてしまい、開成はベスト24で終わることになってしまいました。

関東私学 7月21日 (文責: 現役生柳町)

1試合目 対東京農大二高: 2-1で勝利

2試合目 対慶応義塾: 0-2で敗北

3試合目 対常総: 0-2で敗北

この日の初戦は東京農大第二でした。正確な開場時間を教えられていなかった僕たちは他のチームに比べ大幅に遅れて到着し、開会式には間に合ったものの、外はあいにくの雨でアップをする場所がなく、アップ不十分な状態で第一試合に臨みました。東京農大第二はレフトとライトのオープンバレーで、正直そこまで苦戦する相手ではないと思っていました。しかし、1セット目、僕たちは自分達のバレーをすることができず、かなり苦戦してしまい、かなりの僅差で1セット目はとりました。2セット目、サーブミスでどんどん相手に点数をやってしまい、あっけなく2セット目は

とられてしまいました。試合は3セット目に突入しましたが、3セット目は開成が流れをつかみ危なげなく勝利しました。

二試合目は慶応義塾との対戦。慶応義塾は東京農大第二とは違ってトスは低く、かなり速いバレーをするチームで、この日の対戦相手の中では最も強い学校でした。そのため、僕たちは「この学校に勝てば2日目に行ける。」とモチベーションを上げて試合に臨みました。試合の序盤、開成はいい流れを作り、試合は均衡するかのようには思われましたが、中盤に点差をつけられ、実力の差を感じさせられました。そうして、2セットとられ、慶応義塾に敗れました。

この日最後の常総戦。常総は背の高い二人しかスパイクを打たないオープンバレーでブロックをその2人につければ勝てると思っていましたが、まだブロックがうまくなかったため、その2人にうまくブロックアウトをとられてしまい、負けてしまいました。ブロックは今後の課題だなと思い知らされた試合でした。

6. 近況報告 (敬称略)

- ・ なんとか元気で頑張っております。(S 27 岡部)
- ・ 開成に入学し、即バレー部に入ったのは1949年、62年前です。狭い体育館で汗水たらして練習したのを今でも覚えております。(S 30 野水)
- ・ 身体はガタガタですが、地域福祉のために頑張っています。(S 30 宗近)
- ・ 相変わらず現役で忙しくしております。(S 31 加藤)
- ・ 未だサラリーマン生活を続けておりますが、これも中高とバレー部で鍛えたおかげと思っております。(S 34 杉山)
- ・ さいたま開成シニア会で、日々ゴルフと将棋を楽しんでいます。(S 37 上田)
- ・ 3. 11以後忙しくなりました。常々OB会に出席したいと思っておりますが、なかなか都合がつかず残念です。是非またの機会に参加させていただきたいです。(S 39 宮崎)
- ・ 今年8月で62歳、体力の衰えを感じますが、バレーボールで楽しめるうちは存分に楽しもうと思っております。(S 43 金森)
- ・ 定年後、那須の自宅にて生活しております。東日本大震災による大きな被害はありませんでした。(S 43 渡部)
- ・ バレーボールに集中した若い日々が、今の小生の血となり肉となっています。経験の蓄積に感謝です。(S 46 西村)
- ・ 転勤により、自宅から通うことのできる事業所に移りました。先の震災では、自宅に被害があり片付けに手間取っております。(S 49 丹治)
- ・ この度、岡山県庁から厚生労働省に戻ってきました。(S 61 神ノ田)
- ・ 一昨年よりオーストラリア(シドニー)に留学しております。来年3月に帰国予定です。(H 4 土岐)
- ・ 東大病院の大腸肛門外科に勤務しております。(H 9 日吉)
- ・ 大学院を卒業し、横浜市立大学付属病院で勤務しております。近くにお越しの際には、お声を掛けてください。(H 9 飯田)
- ・ 今年、6年間のアメリカ勤務・留学を終え、帰国いたしました。次回の定期戦等の行事からは是非とも参加しようと思っております。(H 10 川原)
- ・ 野村証券 IT 基盤戦略部に所属しております。(H 14 保谷)
- ・ 現在大阪赴任中です。(H 15 川原母)

- ・今年8月から大阪府警勤務となり、南警察署道頓堀交番にて眠れない日々を過ごしております。また、この赴任を期に、OB会幹事長もH22年卒の藤井君に引き継ぐこととなりました。5年間拙い幹事にご協力頂き、本当にありがとうございました。この場を借りて心から感謝申し上げます。(H18 小泉)
- ・法科大学院も最終学年となりました。日々勉強に勤しんでおります。(H18 梶原)
- ・今年の春、東京大学に進学いたしました。充実した毎日を過ごしています。(H22 藤井)
- ・東京大学バレーボール部に入部しました。まずはレギュラーを勝ち取れるよう、精一杯頑張ります。(H22 南日)

※開成バレー部OB会のHP

このたび、H21年卒の溝口君がホームページ幹事に就任し、以前からあった開成バレー部OB会のホームページをリニューアルしてくれました。以前は更新頻度も少なく、最新の情報をお届けすることはできませんでしたが、これからは直近の練習日程はもちろん、現役の試合日程・試合結果などもどんどん更新していく予定です。またこれまでに引き続きOBの方同士の情報交換には、併設されている掲示板をご利用いただけます。

それらに加えて現コーチの紹介のコーナーなども取り入れ、年配の先輩方に現在の開成バレー部の状況を少しでも感じていただければと思っております。以下アドレスを添付しておきますので、お手すきの際には是非ともチェックしてみてください。

開成バレー部OB会ホームページ：<http://kaiseivolleyball.Web.fc2.com/>

開成学園排球部OB会会報第30号

発行：平成23年9月

執筆：関（S54）、小泉（H18）、
藤井（H22）、松本（H22）